

<<注意報>><<注意報>><<注意報>><<注意報>><<注意報>>

28 農試病防第 27041 号
平成 28 年 5 月 31 日

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病虫害防除所長
(公 印 省 略)

平成 28 年度 病虫害発生予察注意報第 2 号について

このことについて、次のとおり発表したの送付します。

平成 28 年度 病虫害発生予察注意報 第 2 号

1. 病虫害名： **イチゴうどんこ病**
2. 対象作物： **イチゴ（育苗床）**
3. 発生が予想される地域： **県下全域**
4. 発生程度： **多**
5. 注意報発表の根拠
 - 1) 5 月下旬に実施した発病調査では、発生圃場率は 83.3%（平年：48.7%）、発病株率は 42.0%（平年：17.9）であり、発生圃場率、発病株率ともに過去 10 年間で最も高かった（第 1 表）。
 - 2) 向こう 1 か月の気象は平年に比べて曇りや雨の日が多いと予報されており、育苗床がうどんこ病菌の感染や増殖に好適な環境になりやすいため、今後も発生が増加するおそれがある。

第 1 表 イチゴ育苗床におけるうどんこ病の発生状況

発生圃場率(%)					発生圃場の発病株率(%)				
年次	4月下旬	5月下旬	6月下旬	7月下旬	年次	4月下旬	5月下旬	6月下旬	7月下旬
2006	0.0	9.1	27.3	45.5	2006		1.0	2.3	35.2
2007		45.5	54.5	36.4	2007		6.7	8.2	3.0
2008	25.0	69.2	53.8	7.1	2008	7.0	7.1	4.5	2.7
2009	15.4	38.5	30.8	16.7	2009	49.0	17.6	29.0	3.0
2010	0.0	54.5	54.5	10.0	2010		17.3	3.8	1.0
2011	30.0	60.0	30.0	16.7	2011	42.7	17.0	16.0	6.0
2012	22.2	36.4	50.0	25.0	2012	5.0	9.5	17.0	8.0
2013	16.7	77.8	50.0	33.3	2013	2.0	40.0	44.7	27.5
2014	0.0	45.5	66.7	16.7	2014		30.4	33.8	23.0
2015	20.0	50.0	75.0	33.3	2015	15.0	32.0	42.8	16.5
2016	58.3	83.3			2016	39.3	42.0		
平年値	14.4	48.7	49.3	24.1	平年値	20.1	17.9	20.2	12.6

6. 防除対策

- 1) 本病は葉裏に発生することが多いので、こまめに観察して早期発見し、薬剤は葉裏までかかるようにいねいに散布する。
- 2) 発生圃場では、7～10日間隔で薬剤防除を行う。曇雨天が続き、急増が予想される場合には、治療効果のある剤を主体に5～7日間隔で防除を行う。
- 3) 伝染源を絶つため、本圃の収穫終了後の株や切り離れた親株は早期に除去し処分する。
- 4) 窒素肥料の過多や葉が混み合ったりすると多発しやすくなるので、適切な栽培管理を行う。
- 5) 7～8月の高温期になると白い粉状の分生胞子は見られなくなるが、病原菌はイチゴ苗に残存しているので、本圃へ発病株を持ち込まないように発病葉は可能な限り除去するとともに、育苗床での防除を徹底する。
- 6) 耐性菌の発生を防ぐために、同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。散布回数が多くなることから、各薬剤の使用回数及び収穫前日数を遵守する。



写真1 葉裏に発生した初期症状



写真2 激発し葉が巻いた症状

第2表 イチゴのうどんこ病の防除薬剤（香川県主要農作物病害虫・雑草防除指針より抜粋）

系統分類	薬剤名	成分名	希釈倍数	使用時期／回数	成分を含む総使用回数
銅殺菌剤	サンヨール	DBEDC	500～1,000倍	前／6	6回以内 (定植前の苗浸漬は1回以内)
無機殺菌剤	イオウフロアブル	水和硫黄	2,000倍	－／－	－
	クムラス	水和硫黄	500～1,000倍	－／－	－
	コロナフロアブル	水和硫黄	500～1,000倍	－／－	－
	サルファーゾル	水和硫黄	500～1,000倍	－／－	－
酸アミド系殺菌剤	アフエツフロアブル	ベンチオビラド	2,000倍	前／3	3
ステロール生合成阻害剤	トリフミン水和剤	トリフルミゾール	3,000～5,000倍	前／5	5
	ルビゲン水和剤	フェナリモル	4,000倍	前／3	3
	ラー水和水剤	マイクロブタニル	4,000～8,000倍	前／3	3
	ラー乳剤	マイクロブタニル	5,000倍	前／3	
	サンリット水和水剤	シメコナゾール	2,000～4,000倍	前／3	3
	サブロール乳剤	トリホリン	2,000倍	前／5	5
ストロビルリン系殺菌剤	アミスター20フロアブル	アゾキシストロピン	1,500～2,000倍	前／苗床4、本圃3	7回以内(苗床では4回以内、本圃では3回以内)
	ストロビーフロアブル	クレソキシムメチル	3,000～5,000倍	前／3	3
アニリノピリミジン	フルピカフロアブル	メバニピリム	2,000～3,000倍	前／3	3
抗生物質殺菌剤	ポリオキシAL水和水剤	ポリオキシシ	1,000倍	収穫開始14日前／3	3
	ポリオキシAL水溶剤	ポリオキシシ	5,000倍	収穫開始14日前／3	
生物農薬	インプレッション水和水剤	バチルスズブチリス	2,000倍	発病前～発病初期／－	－
	ボトピカ水和水剤	バチルスズブチリス	2,000～4,000倍	発病前～発病初期／－	－
その他の合成殺菌剤	モレスタン水和水剤	キノキサリン系	3,000～4,000倍	前／2	2
	ベルコート水和水剤	イミノクタジンアルベシル酸塩	1,000倍	育苗期(定植前)／5	7回以内(育苗期は5回以内、本圃では2回以内)
			4,000倍	前(生育期)／2	
	ベルコートフロアブル	イミノクタジンアルベシル酸塩	2,000～4,000倍	前(生育期)／2	
	ガッテン乳剤	フルチアニル	5,000倍	前／2	
	ムシラップ	ソルビタン脂肪酸エステル	500倍	前／－	－
	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	100倍	前／－	－
	サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド	300～600倍	前／－	－
混合剤	ファンベル顆粒水和水剤	イミノクタジンアルベシル酸塩＋ピリベンカルブ	1,000倍	前／2	イミノクタジンアルベシル酸塩：7回以内(育苗期は5回以内、本圃では2回以内) ピリベンカルブ：3
	ダイアメリットDF	イミノクタジンアルベシル酸塩＋ポリオキシシ	2,000倍	育苗期(定植前)／1	イミノクタジンアルベシル酸塩：7回以内(育苗期は5回以内、本圃では2回以内) ポリオキシシ：3
				収穫開始14日前／2	
	パンチョフ顆粒水和水剤	シフルフェナミド＋トリフルミゾール	2,000倍	前／2	シフルフェナミド：2 トリフルミゾール：3
	ダイマジ	イミノクタジンアルベシル酸塩＋フェンヘキサミド	2,000倍	前／2	イミノクタジンアルベシル酸塩：7回以内(育苗期は5回以内、本圃では2回以内) フェンヘキサミド：3
ジーファイン水和水剤	炭酸水素ナトリウム＋銅	750～1,000倍	前／－	－	

病害虫防除所インターネットホームページ

URL：<http://www.jppn.ne.jp/kagawa/>